

令和元年10月8日

森林環境教育 豊前市立角田小学校
～校内の樹木観察～

豊前市立角田小学校の4, 5年生14名と一緒に校内に植樹されている木々を題材に、秋になると葉の色が変わる木、冬になると落葉する木などを説明すると共に樹木の効用にも触れ、森を大切にすることを伝えました。

最初、緊張気味の子どもたちの気持ちをほぐす為に、ここ豊前地方でも厄介者になっているシカ、イノシシを回答にしたノーズゲームを実施し、校内の樹木観察を開始しました。



観察時間が25分程度しかなかったことより、これだけは学んでほしい事柄を重点的に説明しました。例えば、秋になると葉の色が変わる木、葉が散る木、プロペラのような種を持つ木、オスとメスに分かれている木などを説明しました。途中、葉を触りながら葉の厚さを感じ取りながらこの葉は冬でも落ちないと説明できるようになった子どももいました。また、運動場のショウリョウバッタやエンマコオロギを捕まえようとする子どももいて、全てを説明するには時間が足りませんでした。



最後に今日の感想を聞いたところ、こちらで準備した樟脳の結晶が一番心に残ったのか、木から薬が出来ることが一番面白かったとの感想をもらいました。当方からはまとめとして食物連鎖の話をし、校内に素晴らしい多種多様な木があるので、今後、名板づくりでもしてはどうでしょうかと提案し、怪我もなく終了しました。



(スタッフ：野見山、赤松、中村)